

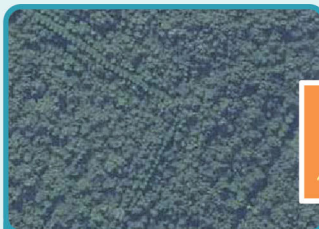
ドローンが配備されました ドローンってすごいんだろ～ん

いろいろな業界で脚光をあびているドローン。宅配サービスによる活用など可能性は無量大。家庭でも趣味として利用する人もおり、身近な存在となりつつあるドローン。日野振興局農林業振興課にも、主に森林情報の収集など林業への活用を目的としてドローンが配備されました。



そこで、林業におけるドローン活用をちょっとご紹介!

活用1 伐採前の現地確認



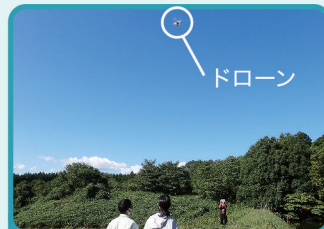
これまで林業で利用されていた写真(飛行機から撮影)(費用がかかるため数年に1回の撮影)



境界木のスギが鮮明に見える

【ドローン撮影】(R2.10.26撮影)伐採前

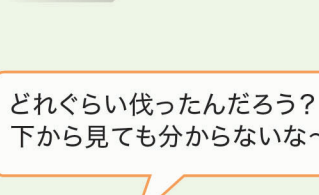
ヒノキと椎茸原木(クヌギ)が混ぜて植えてある



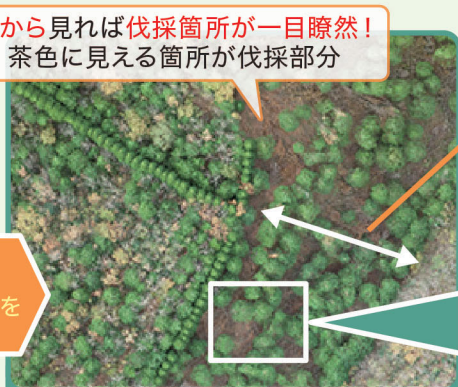
【ドローン操縦状況】山に入らず、見晴らしの良い場所から操縦。

広い山を何度も歩いたり、崖のような斜面を登ったり、藪をかき分けて進む必要は無い! **労力の軽減!**

活用2 椎茸原木(クヌギ)のみを伐採した後の現地確認



どれくらい伐ったんだろ? 下から見ても分からないな～

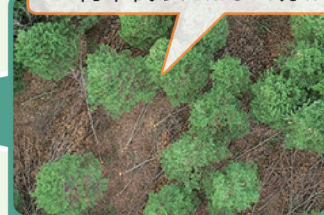


空から見れば伐採箇所が一目瞭然! 茶色に見える箇所が伐採部分

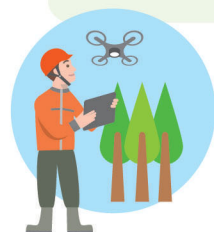
【ドローン撮影】(R2.11.25撮影)伐採後

ドローンで撮った写真を利用して距離、面積も把握できる

山に入らなくても切り株も見え、何本伐ったかまで分かる



【拡大写真】



日野振興局農林業振興課の他、鳥取県内の森林組合、林業会社では既にドローンの導入、活用が進んでいます。

森林の適正な管理のため、間伐が必要な場所の把握や実施後の確認、山地災害現場の状況確認等、幅広い活用が期待されています。

日野振興局 農林業振興課 電話:0859-72-2018 FAX:0859-72-2125

日南トマトの現在 ～産地を支える若手生産者～

日南町は、近年安定した収量、販売額を維持する夏秋トマトの県内随一の産地です。平成21年度から農業研修制度を開始し、後継者の育成・定着を図った結果、現在までに16名がトマト農家として新規就農しています。日南トマト青年部はこれらの若者が中心となって平成27年に結成された組織です。



初代 青年部長(H27.3.1-H29.2.28)であった岩田真也氏は、長年栽培されてきた‘桃太郎’から、高品質多収品種である‘りんか409’への品種転換を推進し、生産者の意欲が大きく向上しました。そして、現在は生産部長として産地を牽引しています。

2代目 青年部長(H29.3.1-H31.2.28)の佐野健志氏は、経営改善の意識が高く、毎年春先に各自が「定植株数を増やして3L(大玉)抑制」「米ヌカを使った土壌消毒で青枯病防除」などの改善目標を定め、作付け終了後には結果と反省点を共有する取り組みを開始し、低収量で悩んでいた生産者の経営が好転する事例ができてきました。

3代目 となる現青年部長(H31.3.1-)は平岡竜也氏です。町内で初めての隔離土耕栽培(プランタ栽培)に取り組むなど、夫婦で力を合わせ努力を重ねています。高い技術力をもって現地巡回指導に当たるなど精力的に活動しています。自身も規模拡大を計画中であり、さらなる飛躍が期待されます。

現在、日南トマト生産部は47名で、5.8haの栽培を行っています。うち青年部員は14名にすぎませんが、面積は約5割を占め、技術や生産意欲の向上とともに販売額の6割弱を上げる存在に成長しており、産地の世代交代は着実に進行中です。生産部では、10年、20年後を見据え、「日南トマト産地ビジョン」の策定に取りかかっており、青年部を中心に販売戦略や担い手確保等、具体的な取り組みを提案していく予定です。



青年部会員は一生涯懸命技術を磨いて、次世代を担う存在となってもらいたいと思っています。

平岡青年部長夫妻

青年部による圃場巡回

日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2025 FAX:0859-72-2090

つぼくらとみあき 坪倉富章さん(日南町)のコシヒカリが最優秀賞! ～日野川源流米コンテスト～



JA日野営農センター 渡辺センター長と最優秀賞 坪倉さん(右) 品種は「コシヒカリ」

「日野川源流米コンテスト(主催:日野郡産米改良協会)」は令和2年で18回目を迎え、旧日野郡で栽培されたお米が145点出品されました。今回は「ひとめぼれ」「コシヒカリ」に加え新たに「きぬむすめ」を対象とし、11点の出品がありました。全体の傾向としては、夏の猛暑の影響で未熟粒が多くなりましたが、坪倉さんの出品米は食味値が非常に高かっただけでなく外観品質が大変良いことが評価されました。

坪倉さんのコメント おいしいお米ができたのは土づくりや有機肥料散布のおかげで水田が良くなったから。ただ雑草が多くなり収量が少なかったため、今後は収量を上げていきたい。

※今回のコンテストは、新型コロナ感染防止の対応のため、12月14日にJA日南支所にて最優秀賞(県知事賞)の授与式のみ行いました。

日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2028 FAX:0859-72-2090